



甲状腺機能低下症

■ 病気の概要

甲状腺は喉の近くにあり、代謝を調節するホルモンを分泌する臓器です。甲状腺機能低下症は、このホルモンが不足し、体の代謝が低下する病気です。中高齢の犬に多く、ゴールデンレトリバー・ビーグル・ボクサー・ダックスフンドなどに好発します。「元気がない・太る・毛が抜ける」など加齢と間違われやすい症状がゆっくり進みますが、ホルモン補充で多くは改善します。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・元気がない・活動性が下がる・寝てばかりいる
- ・食事量が変わらないのに太る
- ・寒がる（暖かい場所を好む）
- ・左右対称に毛が薄くなる・毛づやが悪い
- ・皮膚が黒ずむ・厚くなる・皮膚病を繰り返す
- ・顔つきがむくんだように見える

■ どんな検査をするの？

- ・血液検査（T4・FT4・TSHなどの甲状腺ホルモン値）
- ・一般的な血液検査（コレステロール高値・貧血などの確認）
- ・甲状腺の超音波検査
- ・症状が似た他の病気との見分け

■ 治療方法

内科治療

- ・レボチロキシン（甲状腺ホルモン補充薬）の内服（生涯継続）
- ・投与量を血液検査で調整
- ・皮膚病など合併症の治療

外科治療

- ・通常、外科治療は行いません

■ ご家庭で気をつけること

- ・ 補充薬を毎日決まった時間に確実に続ける
- ・ 定期的な血液検査でホルモン値を確認し、量を調整する
- ・ 体重・毛の状態・元気を観察する

■ よくある質問

Q. 一生薬が必要ですか？

A. はい。ただしホルモン補充薬は副作用が少なく、適切に飲み続ければ通常の生活が可能です。

Q. 薬を始めたらのくらいで良くなりますか？

A. 元気や活動性は数週間で、脱毛などの皮膚症状は数ヶ月かけて改善していきます。

Q. 太っているのは甲状腺のせいですか？

A. 甲状腺機能低下症では代謝が落ちて太りやすくなります。血液検査で確認できます。ただし食事量など他の原因のこともあります。

■ なつ動物病院での診療について

当院では血液検査によるホルモン値の評価と、ホルモン補充による長期管理を行います。「元気がない」「太ってきた」「左右対称に毛が抜ける」という中高齢の犬はご相談ください。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください